



# 持続可能な 社会への挑戦

IHI会長

## 満岡次郎

みつおか つぎお

# 2

2015年、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され「誰一人とり残さない、持続

的な開発」に向けた意識変化が促された。

さらに、新型コロナウイルスの影響長期化、大規模な自然災害の世界的な頻発、カーボンニュートラル社会への急激な加速など、激しい変化が常態化した世界の中、企業経営者は長期の目線で諸課題に真摯に向き合っていかなければならない。

とりわけカーボンニュートラルについては、2021年に開催されたCOP26の議論においても各国の思惑は様々で、国際協調から自国優先主義への逆潮流も感じ取られ、まさに社会の価値観、人々の価値観が問われている。岸田文雄首相は、S+3Eを基本とし、発展が期待されるアジアの国々とも力を合わせてトランジションを実現していくと宣言された。テクノロジ一面ではグリーンイノベーション基金が造成されたが、求められる目標は極めて高く、その達成に向けては様々な革新的テクノロジや複雑なインテグレーション・全体最適

化のテクノロジが必要となる。

重要な課題はカーボンニュートラルにとどまらない。世界の人々の豊かさを切り開くためには新しい価値を創造すること、大胆に挑戦することが不可欠となる。さらに、様々な思惑、価値観を持つ世界を相手に、国際社会を通じて力強く発信し、理解・共感の輪を広げる継続的な努力が大前提である。政治家が強く連携し、総力を挙げて挑戦することが求められる。

大胆な挑戦にはリスクへの備えと覚悟も必須となる。現実には試行錯誤の中で一歩ずつ進められるが、成功もあれば失敗もある。日本人は失敗を嫌うが、価値ある失敗こそが大胆な挑戦への成功の鍵を握る。フェイルファーストが我々を大きな成功へと導く。岸田内閣が掲げる「新しい資本主義」「成長と分配」の好循環の実現、30年に及ぶ景気停滞からの脱却に向け、「まずは成長」に資するイノベーション創出とその実装化を加速させるべく、会員企業各位のご指導とご支援のもと経団連の活動に貢献してまいりたい。